

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ハピネス吉根 1F
(ユニット名)	グループホーム ハピネスキッコ 1F
所在地 (県・市町村名)	名古屋市守山区桔梗平2丁目2212番地
記入者名 (管理者)	小出 美佐
記入日	平成 年 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	長年にわたり社会に貢献した高齢者を人生の先輩として尊重しながら、よりよい環境と援助を行うことにより、利用者様が安定した穏やかな生活を送れるよう支援する。という理念をたて、サービスを向上している。	○	ハピネス吉根独自のカラーが出せるようにとり急いで行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいて基づいて支援している。	○	ここの趣味、特技を生かして行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設には理念を掲示しており、運営推進会議でもお話しているが、周辺住民などには分からない。	○	外からも分かるように、施設入り口などに掲示を検討したい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩へ出かけ近隣の方と挨拶を交わす。町内会への加入や回覧板により情報を知る。	○	近所の方と交流が持てるか模索中。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊り等や敬老会、養護老人ホームのふれあい祭りなどに参加したり自治会長とのコミュニケーションをとったり地域との交流がある。【子供110番】(地域小学校管轄)を掲げている。	○	【子供110番の家】(警察管轄)のほうも掲げることができるように調整中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議のみ。	○	まだ若い世代の地域なので、今後の為にも当ホームの存在を自治会長をはじめ地域の方に知っていただくようにする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組んでいる。毎年これを機会に見直しや改善を行っている。	○	今年新しい事業所に評価を受け違った目での評価に基づいて、新たに改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加がない。	○	支援センターや区の方の参加を希望したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前利用していた入居者様がいた為理解できている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修にも参加したスタッフがおおり、禁止の対象となる具体的な行為の書類をスタッフが日々目にするところへフェイリングし、日々虐待防止に努めている。	○	問題行動がある方に対して生命への危険がないようにケアに努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時の契約時には管理者より時間をかけて説明し、理解を得ている。今のところ、トラブルや苦情はない。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見不満、苦情はそのつど傾聴し職員への申し送りやカンファレンスで話し合い今後へと反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回のお手紙「ハピネス通信」にて報告している。健康状態、金銭管理等は、家族へ電話等で連絡している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>通信により、意見不満、苦情をお聞きし、職員へ申し送り反映させる。ケアプラン作成時に送るアンケートでも意見をいただいている。</p>	<p>○ 家族との積極的なコミュニケーションをとるようにする。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>先月より運営者を交えての意見交換を行う。</p>	<p>○ スタッフの意見交換の場として食事会の開催。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>法で決められた人員確保は達成しているも、介護度が重い方、退院後間もない方などがおり、スタッフとしては人員の不足感がある。</p>	<p>○ 入居者の状況に応じて、法で決められた人員より多く配置するなどの配慮がほしい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営上困る場合以外は、配置変換は行っていない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> <p>一部の職員ではあるが、研修を受ける機会が確保できた。</p>	○	<p>いろいろな研修の場があると思いますが、働きながら個人的にはなかなか研修の機会を取り逃がしがちなのでそういう情報を流し続けているとよいかと思います。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> <p>各研修や、2ヶ月に1度の懇親会へ参加している。</p>	○	<p>勉強会や他施設との交流が持てるようにしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> <p>年に1度の忘年会がある。</p>	○	<p>定期的な茶話会や食事会を開催すると良い。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> <p>能力や勤務年数に応じては対応していただけていない。</p>	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>入居当初は不安定になられる方も多いため、特に配慮しケアに努めている。</p>	○	<p>生活や排泄パターンなど把握し、スタッフ全員が速やかに対応できるようにしていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> <p>入居相談のときから、当施設への利用につながらない場合でも、よくお話を聞き、他機関の調整を行う場合も有る。利用当初はご家族様へも密に連絡を取り、納得して利用いただけるようにしている。</p>	○	<p>継続していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談のときから、当施設への利用につながらない場合でも、よくお話を聞き、他機関の調整を行っている。	○	継続していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談のときから、当施設への利用につながらない場合でも、よくお話を聞き、他機関の調整を行う場合も有る。利用当初はご家族様へも密に連絡を取り、納得して利用いただけるようにしている。家族や本人からも意向を聞きながら、調整をしている。	○	今後も家族を含めたコミュニケーションをとる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	園芸や調理、洗濯などを一緒に行い、若いスタッフへいろいろ教えていただくこともある。日々の生活の中に、簡単な運動や漢字や計算のドリル、大人の塗り絵、絵手紙などを行うなど個々の興味にあわせて対応している。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	レクリエーション等の写真公開や日常の情報を提供し共有する。	○	家族参加型のレクリエーションを増やして行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の際には各居室またはリビングでくつろいでいただいたり、外出や外泊は自由に行っていただけるようにしている。	○	家族が気軽に来ていただけるような雰囲気作りに努める。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	「ハピネス通信」を送付している。ご本人からのお手紙などは自由に行えるようお手伝いしている。	○	今後も知人、親戚等気軽に面会していただけるよう取り組みたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、自然に助け合い、励ましあい、生活できている。	○	孤立しているときは声かけをし、皆で助け合う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、訪問して下さる方やお電話くださる方もいらっしゃる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室へ馴染みの家具や飾り物の持ち込みは制限していない。暮らし方への希望などは日々お聞きし、実現できることは実現している。	○	本人の意思を尊重して把握するように努める。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面接時や入居後の本人様とお話の中から、生活歴や生活環境などを把握し、できる限りご希望に近づけることが出来るように努力している。	○	入居前面接時でのアセスメントや生活歴の把握を徹底したい。入居後把握してことは記録として残していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々人の出来ることを把握し、出来るお手伝いをしている。	○	継続していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族との話し合いが出来ないご家族もいらっしゃる為、ケアプラン作成時にはアンケートを行っている(返答のない方もいらっしゃる)。アンケートやアセスメントなどを素に、ミニカンファを行い作成している。	○	アンケートは昨年末より、ミニカンファは9月ころより行っている為、継続しよりよい形にしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い、見直しが必要と判断された場合、区分変更などで介護度が変わった場合などは、上記と同じステップを踏み計画を立て直している。	○	アンケートは昨年末より、ミニカンファは9月ころより行っている。日々内容を検討しているが、継続しよりよい形にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	【介護記録】【申し送りノート】【報告事項】などをスタッフ全員で共有し、気づきを大切にしている。	○	日々、個別記録を残し介護計画に反映する。後からみて、状況のわかりやすい記録に努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、床屋や買い物、外出や外泊など9名という少ない定員であることを生かし柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に数回(コーラス、マジック、落語、レク)ボランティアの方が来て下さる。年に1回の消防訓練の実施。	○	文化教育機関等の協力を推進したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問マッサージなど、医師や看護師などとも相談しながら柔軟に対応している。	○	選択できるサービスが増えると良いと思う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護などは、直接「権利擁護センター」や「きずなの会」などと調整している。生活保護などは生活保護担当者と調節交渉をしており、地域包括支援センターとの協働はない。	○	地域包括支援センターが何をしていただけなのかなど、具体的に提示がほしい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医による往診、訪問看護を行っており、ご本人、家族の不安、相談に迅速に対応できるよう努めている。	○	かかりつけ医へのまめな相談を継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の医師が老年医学の専門なので、医師に相談しながら検討している。	○	もっと認知症に関する診断や治療を受けられるようにしたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医院より、訪問看護(週1)を実施し日々の健康管理に努めている。	○	今後も同様に進めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	速やかに介護サマリー等を情報を開示し、情報交換に努めている。退院中も面会や病状を聞きに来院して、すばやく対応できるように努めている。	○	今後も同様に進めていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医と話しをし、終末医療についての取り組みをしている。	○	早い段階から家族や本人と話し合うことをし、共有したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に協力医療意との連携を持ち取り組んでいる。	○	事業所の許容範囲を理解し、今後に備えて検討したい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前のご本人の情報を関係者より、お聞きし十分な話し合いを行っている。どうしても当施設で対応できない場合のみ、他施設や入院期間などの調整を行っている。	○	より詳しい情報交換を積極的に行い、ご本人が不安なく住み替えができるように努めたい。(詳しいアセスメントをすべてのスタッフが事前に理解する。)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには注意しており、乱暴な言葉遣いをしないよう、高齢者の尊厳を損ねないように対応している。介護記録には個人名を出さない、どうしても必要な場合に限り、イニシャルを用いる。	○ スタッフ間同士の会話等も慎重にする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	要望を察知するように努め、個人に合わせた説明声かけをする。	○ 要望がすぐにはかなわなくても、気分を損なわないような言葉かけをする。ご自分でできることへの継続的な支援を続ける。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調にあった声かけ、無理に合わせるのではなく様子を見る。たとえば、入浴や散歩、レクなど、『コンプライアンスルール』をスタッフの目に付くところへ掲示し、啓発している。	○ 体調、気分を見て楽しみにして下さるような声かけを実施する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替え時に、好みの服を選んで頂いたりと同じ服ばかりに偏らないように努める。近所の理容院の利用実施中、ご本人の希望によりスタッフが散髪も実施している。馴染みの理容院を利用している方もいらっしゃる。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングに併設されているキッチンで毎食調理を行い、『耳』『鼻』『目』でお料理が出来てくる楽しみを味わっていただく。個々人の状況に合わせたお手伝いを行っていただいている。時にはリビングのテーブルで、お好み焼きを焼いたり、ホットケーキを焼いたりしている。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人様用のおやつ等、お好みに合わせ召し上がっていただいている。タバコは、他者への副流煙の影響や火の不始末などに配慮し決められた場所で喫煙していただけるようにしている。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々人にあわせたトイレ介助や誘導をしている。トイレ誘導等、トイレでの排尿への声かけを実施。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時(午前、午後)声かけし、その時に合わせずらし入っただけではない。夜や夕方入浴は、今現在ではシフトの関係でスタッフ1人対応の為困難である。	○	ゆず湯やしょうぶ湯など季節感を楽しめる入浴にしたい。夜や夕方入浴もできるようなシフトができるといい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お昼寝、居室にてテレビ鑑賞、ラジオ等ご自由に過ごしていただいている。個々人で自由に過せる時間もつくっている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の散歩や、玄関アプローチの花の手入れ、洗濯、調理、皿洗い、掃除などできることをやっていたりしている。絵手紙など以前好きだったことなどをお聞きし支援している。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活保護者が多く、自由になる金銭(財産)を全く持っていない方もいるので配慮しながら、希望される方に関しては財布に小額を保管されている。歩いていける場所には商店がないため、訪問パン屋、宅配牛乳、ヤクルトなどの訪問を依頼し、希望者は購入をしている。	○	買い物をする楽しみを少し増やして行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応じて、外出することはなかなか困難だが、理容院や買い物、図書館など可能な限り対応している。	○	気軽に喫茶店や買い物などが行える体スタッフ制を希望。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年数回行楽として、節分祭り、花見、紅葉狩り、回転寿司など実施。	○	個人の体調に合わせて楽しめる行楽の実施をしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話をかけてきていただいたり、お手紙などは自由にしていただいているので、切手を用意したりお電話などご家族の都合を調整したりして支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会や外出外泊なども自由に行っていたり、個人の居室でゆっくり過ごしていただいたり、リビングにソファ、テーブルをご用意しており、居心地よい場を心がけている。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修へ参加したり、【身体拘束】についてのプリント類をスタッフがいつも目を通すことが出来る場にファイリングし、拘束防止に取り組んでいる。『コンプライアンスルール』をスタッフの目に付くところへ掲示し、啓発している。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上(不審者情報も多いため)、玄関のみ鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はスタッフの見守り、申し送りの徹底により夜間巡視にて見守りの実施。	○	申し送りの続行、変化への見守り。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	出来る限り、持ち込まれた物品はそのままにしているが、危険性のある刃物などはお預かりしている。お針箱などは個人に合わせた保管にしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため、個人々に合わせた対応にしている。必要のある方はケアプランにあげている。	○	スタッフが問題意識もち、一人ひとりの状態を把握し未然に事故を防ぎたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訪問看護時に対応等を教えていただいている。	○	応急手当などの訓練を年間行事に組み入れたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防災訓練を行い、日頃より意識している。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクの高い利用者様のご家族へは、そのつど詳しくご説明を行っている。ご家族の方と相談しながら、対応を日々検討している。	○	同様、家族と話し合い、記念を防ぎつつ抑圧のない暮らしに努めたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気付いたことは必ず申し送り、詳しくカルテへの記入を行っており、必要があれば、提携の医療機関へ電話連絡をいれ指示をもらったり、訪問を行ってもらっている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテ内に用量、薬品名、効用、副作用などの書かれた紙をファイルし、確認に努めている。医師からの処方後、提携薬局の薬剤師が間違いのないように、薬のセットをしていただけるよう依頼している。内服のチェックも、食事のチェック表内に項目を作りもれないようにしている。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にならないような献立に気遣い。お茶や個人用に牛乳、ココア等お好みの飲み物を用意している。毎日の散歩や家事など、適度に身体を動かす工夫もしている。	○	各個人にあった運動への声かけ、遊びを通じた体操等、日常の中で身体を動かしていただくことへの取り組みたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後への口腔ケアへの声かけと実施。歯科医(週1)による往診や歯科衛生士によるブラッシング指導等していただいている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表を作り毎日チェックし、少ない人には声かけをしている。嗜好やアレルギー、体調不良で食べられないときでも、食材や調理法を変え対応している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	常に予防に対する意識を持ち、手洗い、洗濯等身の回りを清潔に心がけている。個人用のタオル、ラバー手袋の使用。感染予防のマニュアルを作成し、スタッフがいつでも見られるようにしてある。感染症のマニュアルを作成し、いつでも見ることができるようになっている。キッチンに感染症についての書類を張り出している。感染症がはやりだした場合など	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンに食中毒対策の注意事項の張り出しをしている。まな板、食器類は定期的に除菌している。	○	定期的な除菌の続行。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ぱっと見は、施設と分からないような外観にし、近隣に溶け込むように配慮した。アプローチにはプランター玄関前にはベンチを置き、開放感を演出している。	○	季節感のあるアプローチを演出したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感がないように配慮している。共用空間に行事の写真や掲示物で季節感や、お話に花が咲くような工夫をしている。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行動してくつろがれる。ソファを用意し読書、気のあった方とのお話などに利用していただいている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や掲示物を居室へ持ち込んでいただいている。持ち込み品に特に規制をしていない。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに居室の換気を実施している。フローアと老化の温度差を考慮し調整している。トイレ24時間換気中。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のない床、開き戸ではなく、引き戸で使いやすい扇、車椅子でも充分に入れるトイレ等工夫している。	○	同様に取り組み、色分け等で判断できるよう工夫したい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各個室にははっきりと分かるように名札をかけたり、トイレの標記も読みやすいようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	アプローチに鉢植えのプランターを置き、水遣り、花の手入れを行っている。	○	季節感のあるアプローチを演出したい。土の部分がないため大きなプランター等で野菜作りなどにも挑戦したい。

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

訪問看護、往診、歯科往診など、健康管理に留意している。住宅と畑に囲まれは静かな環境の中でスタッフと家族のように穏やかに楽しく過せるような配慮を行っている。生活保護受給者なども入居受け入れをし、孤独に暮らす高齢者を一人でも減らすことが出来るようにしていきたい。